

園名 エデュケアセンター・めぐろ インファント 三期 2026年2月

【 どんな音が出るのかな？ 】

活動のねらい 色々な楽器に触れ、重たさや感触、音の違いを感じながら五感を育む。

【環境をデザインする】  
なかよしリズムスタンド  
(楽器含め)  
【振り返り】

日々の中で、玩具の楽器などを好んで遊ぶ子どもが多かった。その中で様々な楽器に触れる機会を設けた。部屋に運んでくると見たことのないものへ興味津々であった。楽器に触れられると興味のあるものをいくつも手に取っては他の物を手に取っていた。また楽器を手に取ると振ってどんな音が出るのか確かめる子どもが多かった。保育者の視点からも音を確認するときには振る行動が先に出るのだと知ることが出来る機会でもあった。



## 【 いろいろな音に出会おう！ 】

## 活動のねらい

楽器玩具遊びを通して色々な音を聞いたり、鳴らして遊ぶことを楽しみ、音に親しむ。



## 【環境をデザインする】

・準備したもの：電子ピアノ・玩具(どうぶつピアノ・トイローヤルまわしてくるくるサウンド・トイローヤル光とボイス・たたいてベビードラム・ロールアップピアノ)



## 【気付き・振り返り】

6月園長先生によるリトミックがありました。きれいな音色の曲をじっくりと聞いたり、曲に合わせて保育者と一緒に体を動かしたりすることで、音を聞くことに興味をもつ姿が見られました。日頃から歌や、ピアノの曲を聞くと手拍子をとったり、身体を揺らしながらマラカス等音の鳴る玩具を振ってリズムをとったりと音楽に親しむ姿見られてきました。7月には低月齢児が入園しクラスの人数も増え、音を身近に感じてもらえるように月齢や発達段階に合わせた音の鳴る様々な種類の玩具を用意してもらいました。保育者や他のこどもたちが遊んでいる姿を見て興味をもつ子どもたち。玩具に触れ、自分で鳴らし楽しむ音に出会う姿が見られました。驚きや発見があり、好きな音を見つけ喜び夢中になって遊んでいます。音のなる玩具や楽器遊びを通して、五感に刺激を受けながら手指先の力を使い集中力やリズム感を乳児のころから身に付けていくことで、子ども達の成長に繋がっていくと思いました。



## 【 自然の音に親しもう！ 】

活動のねらい



### 【環境をデザインする】

・木の実や落ち葉等自然物・ミニペットボトル・カプセルトイ・透明カップ

### 【気づき・振り返り】

散歩に出かけると、鳥の鳴き声や風やヘリコプター等の音が聞こえると周りを見渡し指差したり喃語を発して知らせたりと普段から身の回りの色々な音に出会い喜ぶ姿が見られている子どもたち。

公園にでかけると、たくさんの落ち葉やどんぐりが落ちており、高月齢児が拾い始めたので、透明カップに入れて集めたり、落ち葉の絨毯を踏んでミシミシカサカサと鳴る音に耳を済ませたり感触を楽しんでいました。保育者が歌う『おもちゃのチャチャ』の歌に合わせて低月齢児もどんぐりを入れたボトルをもって振って音遊びをし興味をもつ姿が見られました。たくさんの発見に驚き出して知らせたり友だち同士真似し合ったり一緒に楽しんだりと夢中になって遊ぶこどもたち。5感を刺激していく中で言葉の獲得や感性の発達を促していきたいと思います。

園名 エデュケアセンター・めぐろ

2025年 8月・9月

【 いろいろな音を知る 】

活動のねらい

- ・楽器の使い方を知り、音を奏でる楽しさを知る
- ・生活の中で、様々な音がある事に気が付き言葉で表現する事を楽しむ

【環境をデザインする】

・準備したもの:楽器



前は自然の音を発見して遊ぶことを楽しんだので、秋は実際の楽器を遊びに取り入れて楽しんだ。楽器の使い方を年上の友だちと一緒に学び、知る事で音への関心も高まっている様子だった。楽器を初めて見る子どももいたので、保育者が見本で使い方を見せると興味を持って遊ぶ事が出来ていた。楽器の名前も自分たちから聞いてくるなど知識を増やしている様子だった。次は実際に自分たちで簡単な楽器を作って遊べるようにしていく。



園名 エデュケアセンター・めぐろ

2025年 6月・7月・8月

【自然の音を見つけよう】

活動のねらい

戸外遊びの中で、自然の中の音や子ども自身が見つけた音を楽しむ

【環境をデザインする】

・準備したもの: 落ちている枝、砂場道具、楽器

【気づき・振り返り】

① 戸外遊びの中で、様々な音がある事に気が付き自分たちで音を探す遊びをまずは楽しんだ。

→木を枝で叩いてみたり、アスファルトを枝で叩いてみたり、排水口の蓋や砂場道具のバケツを叩く等、子ども達の発見を大切にして共有しながら遊びの中で音を探した。

② 園にある楽器を出して、自由に音を出す事を楽しんだ。

→楽器に触れるのが初めてだった子どももいたので、使い方を紹介しながら自由に遊んだ。特に太鼓はバチを使って大きな音や小さな音が出る事を「大きな太鼓、小さな太鼓」の歌に合わせてながら叩くのを楽しめていた。

③ 踏むと音が鳴る玩具を使って音階を少しずつ理解出来る様にした。

→保育者が音階の順番に並べて道を作ったが、自分たちで並び順を変えるなど音階の理解はまだ難しい様子だった。

☆音を見つける事を遊びの中で楽しみながら行うことが出来たので、今後は自分たちで音を作り出す事を楽しめる様に促していく。



園名 エデュケアセンター・めぐろ

2025年 12月・1月

【 楽器を作る楽しさを知る 】

活動のねらい

- ・自然の物を使って楽器を作り、遊びに取り入れる
- ・どんぐりを入れる量を調節して音の変化を楽しむ

【環境をデザインする】

- ・準備したもの：ペットボトル、どんぐり



戸外遊びの中でどんぐりを拾う事を楽しんでいたが、小さいサイズのどんぐりは誤飲の可能性があるので、子どもたちに持ち帰る事を禁止していた。担任が一つの袋に入れて持ち帰り、ペットボトルに入れて見ると音が鳴る事に子どもたちが気が付き楽器作りが始まった。どんぐりの量を調節してみたり、ペットボトルの大きさを変えてみたりと様々な種類の楽器を作ることが出来た。遊びの中で音を鳴らしてみたり、音楽に合わせて鳴らしてみたりと楽しむことが出来ていた。

音に関心を持ち、生活の中で様々な音に気が付いて友だちや保育者と共有する楽しさを知ることが出来た1年になった。

## 【 いろいろな音を発見しよう！ 】

### 活動のねらい

夏ならではの水遊びを通じてどんな音があるのかを知り、音の楽しさに気がつく。



### 【環境をデザインする】

・準備したもの:レジャーシート・タライ・氷・水遊び用玩具

### 【気付き・振り返り】

夏の間行う水遊びから生まれる音に注目して活動を行った。できるだけいつも使っている身近なものを利用した。

#### ・氷の音

氷を容器から出す際に水をかけると微かに音がするので、それに注目した。「静かに聞いてごらん。」などと声かけをするとしっかり耳を澄ませて聞いていた。「わあ〜」と音がしたことがわかった様子だった。「どんな音がするかな?と問いかけたが、ピンと来ていなかったようなので、「ピキピキ音がしたね。」などと声をかけると、真似して言う姿があった。

#### ・タライにあたる水の音

絵本「こぐまちゃんのみずあそび」でこのような場面があったので、子どもたちも真似して行ってみた。絵本で見ている親しみがあったり、「やってみたい」という子どもたちの気持ちが強かったりしたことで、楽しく音を感じることができた。「ザーザーって言っているね。」「雨みたい。」と雨の日と重ね合わせ楽しみながら行うことが出来ているのが印象的だった。

身の回りに様々な音が存在していることが分かった。子ども達も最初はピンと来ていない様子もあったが、保育者の声掛けや働きかけそれによって気が付くことができていたので、今後もそのような声かけや働きかけを行っていきたい。日常に潜む音に気が付くと同時に楽器などを使い、近い音を探すことなどもしていきたいと思う。今期は夏ならではの音を発見できて良かったと感じた。

【 いろいろな音を発見しよう！ 】

活動のねらい:風之音から様々な表現方法を発見する

【環境をデザインする】

・準備したもの:楽器・画用紙

【気づき・振り返り】

今回のテーマは「風」にして今回のプロジェクトを行いました。

まずは「風ってどんな音がするかな?」と問いかけてみると、「ビュンビュン」「ビュー」などの擬音が出てきたほか、「フー」と口で風を吹いて表現する子どももいました。

さらに表現の幅を広げるため、以下の3つの方法を用意し問いかけながら行いました。

①音で表現

楽器を用いて風之音を表現したのですが、単純に楽器を楽しむ姿がありながらも、それぞれが思う風之音を鳴らしていました。棒を使い音を鳴らす楽器や連続して鳴る音の楽器が多かった印象です。

②からだ(動き)で表現

腕やからだを大きく使い、横に動かす動きが多く感じました。回転したり勢いをつけたりしていましたが、悩んでいる子どももいました。

③色で表現

予想通り水色、青、白などの寒色系を選ぶ子どもが多かったのですが、予想していなかった赤を選ぶ子どももいました。

どの表現方法も自由でさまざまありました。私が想像していなかった表現もあり、新しい発見もできて面白かったです。しかし、さまざまあった中でも似通った表現もいくつかありました。日々の生活や遊びの中で自然とそういった感性が身についているのではないかとも思いました。その子どもそれぞれの感性を大切に、のびのびと育てていきたいと思いました。



## 【 いろいろな音を発見しよう！ 】

### 活動のねらい

秋の自然に触れながら音を楽しむ。



#### 【環境をデザインする】

・準備したもの：楽器・空き容器・どんぐり

#### 【気づき・振り返り】

##### ① 同じ音を探そう

公園に行くと、落ち葉がたくさん落ちており、行くとたびにそれを踏んだり、ふわりと宙に舞うように投げたりした子どもたち。「ザクザク」「シャカシャカ」などの擬音語を使いながら歩いていました。そこで、それを子どもたちが普段好きで行っている楽器あそびと結びつけてみることにしました。まずはいつものように好きな楽器を手に取り触れる所からはじめ、「葉っぱの音はどんな音だったかな？」などと問いかけながら行いました。すると、葉っぱの音よりも先に「これ鳥さんみたい！」と『バードコール』と言う楽器を手にする姿もありました。思わぬ発見もありませんが、皆で葉っぱの音を探しました。普段の生活の中での音も楽器で表現出来るものを探し想像力を広げていけたらと思います。

##### ② 木の実(どんぐり)を使って音を鳴らそう

どんぐり拾いが好きで、落ちているのを目にするとすぐに手に取っていたのですが、それを何かに生かせないかと考えたただ拾うだけではなく、楽器にしてみる事にしました。小さいペットボトルを用意し、そこに拾ったどんぐりを入れフタをしてマラカスにしました。拾うのが楽しくて目一杯入れてしまいあまり音が鳴らない子どもも多かったのですが、それと比較するようにどんぐりが少ないものも用意し、比較できるようにしました。好きな木の実拾いと好きな楽器を掛け合わせたおかげで、鳴らしながら歌を歌う姿を見ることが出来ました。どうどんぐりの量を調節したら音が鳴るのか、音が違うのかなどを知ることが出来たと思います。

【 振動について学ぼう・木の音、枯葉の音を聞いてみよう 】

### 活動のねらい

- ① 太鼓の膜とボールを通して振動の大きい小さいを学ぶ。
- ② 枯葉を踏みしめる音を聞いてどんな音が聞こえるか、どんな楽器の音に聞こえるか想像する。
- ③ 木の音・鼓動を聞いてみる。

1



2



3



#### 【環境をデザインする】

・準備したもの:太鼓・カラーボール・聴診器

#### 【気づき・振り返り】

【太鼓】大きく叩くとボールが大きく跳ねる、小さく叩くと小さく跳ねる現象を通して太鼓の膜の“ふるえ”の大小の違いで起こるボールの動きの違いを目で見て体感することができた。子ども達は以前行った糸電話での振動の体験を覚えており、「いとはふるえているのがみえなかったけど、たいこだとふるえているのがみえておもしろかった」と、二通りの体験を比べる姿が見られた。以前行った糸電話の体験から少し日にちが経ってしまったので体験する日にちが近かった方が良かったと感じた。

【落ち葉】落ち葉を踏みしめて歩く際に「どんな音が聞こえるかな?」「どんな楽器の音に似てるかな?」などと問いかけた事で「このおおきいはっぱのおとはなになかな?」「こっちはシャカシャカきこえる!」などとただ歩くだけでは得られない、子どもたちの探究心が深く感じられた時間を過ごせた。「スズのおとにきこえた」「マラカスのおとにきこえた」などと様々な声が聞かれた。この体験を通して次回は自然物を使用した楽器作り、振動を取り入れた楽器作りを行い、音を出すための動作と音を出す物の質の違いによって様々な音を生み出してみたい。

【木の音】聴診器を使用して木の鼓動を聞いてみた。薄い樹皮を探して実施したが子どもによって聞こえる子と聞こえない子の差があった。しかし聞こえなくても「このきならきこえるかもしれない!」と、様々な木に聴診器を当てて探究活動を楽しむ姿が見られた。「ガサガサきこえる!」「ゴボゴボきこえる!」などと様々な声が聞こえた。聞こえなかった子ども達にはネットで検索した録音で聞かせており「おしゃべりしてるのかもしれない」と、つばやく子どもの姿もあった。木の鼓動の正体は明確には判明していないとの事なので、次回は子どもたちと一緒に木の鼓動の正体を想像してもらい、絵で表現してみたいと思う。

【 木の音を聞いてみよう・手作りおもちゃで振動を体感してみよう 】

### 活動のねらい

①聴診器を使い木の音を聞いてみる。

②ギター作りを通して振動を体感する。③聞こえた木の音の正体を想像し、絵でデザイン・表現する

#### 【環境をデザインする】

・準備したもの(聴診器・画用紙・絵具・クレヨン)

#### 【気づき・振り返り】

①《聴診器》聴診器で木の音を聞いてもらい、どんな音が聞こえるか問いかけると「ドンドン」「ゴゴゴ」「ザワザワ」など様々な声が聞かれた。子ども達は一体どんな音が聞こえるのかワクワクした様子で楽しんでいました。また、大人が聞える音と子どもが聞える音とでは低い・高いなどの差があり非常に面白い体験ができました。

#### ②《ギター作り》

様々な輪ゴムの幅をティッシュ箱につけ、音の違いを体感してもらった。細い輪ゴムは高い音、太い輪ゴムは低い音、などと音の違いを感じたり振動の様子をじっくり観察することが出来た。振動して音が聞える仕組みを分かりやすく体感することが出来た。

#### ③《デザイン・表現する》

木の音の正体は明確な正解がないということなので子ども達に想像してもらい、想像した音の正体を絵で表現してもらった。「にんげんがすんでいるおと」「きがおみずをのんでいるおと」「きっとむしがなかにすんでいるんだよ!」「きがダンスをおどっているとおもう」「うみのおとがしたからうみがひろとつながっているんだよ」など様々な声が聞かれ、子ども達はおもいきり絵で表現していた。明確な正解がないからこそ、子ども達にたくさん想像してもらおうことが出来た。「こんどはつちのなかのおとをききたい!」と、更なる探求心が広がっていた。



### 活動のねらい

- ① 水の音を体感しながら聞いてみる。
- ② ハンドベルを使用して音の高い、低い、大きい、小さいの違いを知る。
- ③ 糸電話を使って振動について学ぶ。



#### 【環境をデザインする】

・準備したもの:レジャーシート・コップ・糸・段ボール・ハンドベル

#### 【気づき・振り返り】

##### 【水の音】

普段遊んでいる水遊びでは気付かなかった水がはじく音に対して「パラパラなおとがみずのりょうがすくないとき、おおいときはドドドっておとがするよ」などと水量の違いが音の変化も生むことに気づいた様子であった。

##### 【ハンドベル】

まずはハンドベルを使用して高い音、低い音の違いを体感し、広い部屋の空間で聞いた音、狭い空間で聞いた音の違いを体感した。「ひろいところだとながきこえる！」と、響きの違いや反響の時間差に気付いたり、「せまいダンボールのへやだとおとがおおきい！」と音の大きさに気付いたり、「せまいとちょっとこわいおとにきこえる」と、不快な音に感じた子どもの姿も見られた。

##### 【糸電話】

糸電話を使用して、声が空気を振動させ、その振動がコップの中から糸を伝って相手のコップに伝わる仕組みを体感し「こんなほそいいとにしんどうってつたわるの？」と、振動について興味関心が深まった様子であった。

次回は振動の振れ幅の小ささ、大きさの違いを目で見て体感できるような体験を実施し、子どもたちの探究心を更に深めていきたい。

